令和６年度　岩手県立総合教育センター

研究主題

幼児期からの学びをつなぐ 小学校第１学年生活科の授業実践

－発達や学びの接続の理解を深める保育体験を通して－

【研究担当者】長期研修生　橋本　加奈子（所属校　大槌町立吉里吉里小学校）
【この研究に対する問い合わせ先】
教科領域教育担当 TEL 0198-27-2735　FAX 0198-27-3562 E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

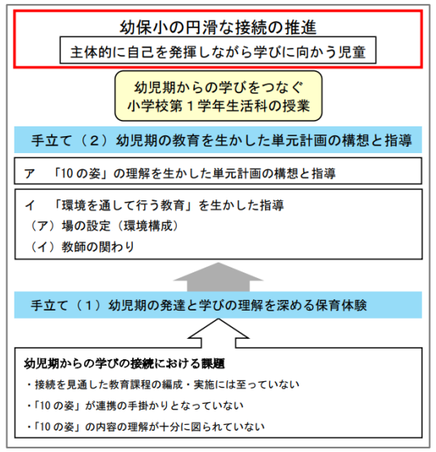
Ⅰ　はじめに

令和４年３月に文部科学省から「幼保小の架け橋プログラム」が示されました。５歳児から小学校１年生の２年間を架け橋期と称して、学びの連続性に配慮しながら架け橋期の教育の充実を図ることが求められています。

本研究では、幼児期の教育を生かした指導を小学校第１学年で行い、幼保小の円滑な接続の一例を示すことを目的に、**幼児期の発達と学びの理解を深める保育体験**を行いました。そして、保育体験で理解したことを基に、**幼児期の教育を生かした単元計画の構想と指導**を手立てとして生活科の授業実践を行いました。

保育体験を通して、幼児の遊びの中の多様な学びの姿や、それに関わる環境構成と教師の援助を理解し、**幼児期の教育から学びを積み重ねていくイメージをもつことができました。**また、授業の中で児童が発揮している幼児期の学びを見取り、保育体験を通した気付きや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(「10の姿」)」の理解を基に、必要な関わりを見直しながら指導手立てを構想することで、**児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう姿につながりました。**

【研究構想図】



Ⅱ　実践及び分析と考察（保育体験）

手立て（１）幼児期の発達と学びの理解を深める保育体験

保育体験前は…
・遊びの中の学びってどういうことだろう？
・「10 の姿」で示されている内容そのものが、幼児の学びの姿ではないの？

【遊びの中で「10 の姿」を捉える（石鹸クリーム作り）】

幼児の遊びの分析の事例から
・石鹸に触って**「久しぶりにやるなあ」「これ家で嗅いだことある」**と呟く幼児の言葉から、**経験を想起している姿**を見取り、「10 の姿」の**「思考力の芽生え」**へ向かう姿と捉えました。
・この遊びの中では、他にも**「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」**などの「10 の姿」に向かう姿を見取ることができました。**学びの姿は多様であり、何気ない言葉や行動から内面を推し量ることが大切だと分かりました。**

保育体験を通して…
・「10 の姿」を手掛かりにすることで、遊びの中の**学びの姿を具体的な姿**で理解することができました。
・「10 の姿」に到達している姿ではなく、**「10 の姿」に向かっていく学びや育ちの姿**を捉えようとする見取りを理解することができました。

Ⅱ　実践及び分析と考察（生活科）

手立て（２）ア「10 の姿」の理解を生かした単元計画の構想と指導

【遊びの準備を行う児童】

幼児期の多様な学びの姿（「10 の姿」）を理解したことによって…
児童が発揮している幼児期の学びを詳細に見取ろうとする意識が高まり、**学習の中で生かしたい「10 の姿」を考えたり、児童の実態から手立てを構想したりすることができました。**

水遊びを楽しみたい意欲はあるものの、遊びを選択できない児童がいました。そこで、幼児期に育んできた**「協同性」**に関わる姿を生かした指導を行うことで、**活動の安心感につながり、友達と一緒に遊びを決めて活動する姿**が見られました。（「10 の姿」の理解）

手立て（２）イ「環境を通して行う教育」を生かした指導（（ア）場の設定（環境構成）（イ）教師の関わり）

場の設定や教師の関わりによって…
幼児期の環境構成や教師の援助は、**幼児が主体的に活動することを促し、活動への安心感や自信、意欲にもつながっていました。**このような幼児期の教育を生活科の学習活動に生かすことで、児童が**幼児期の学びを発揮して活動に取り組んだり、自分から遊びに関わろうとしたりする姿への変容**を見取ることができました。

【児童だけで砂遊びを進める様子】

「もっと深く、広く掘りたい」という砂遊びグループの**児童の願いを基に、**前日の場を残しておき、続きから活動することができるようにしました。また、児童が自分達で用具を準備することができる場を設定したことにより、研究担当者がいなくても**児童だけで活動を進めていました。**

授業を参観した教職員の声（一部抜粋）

・はじめは水遊びをしなかった子が、休み時間も友達と準備をして、**一人でも活動に取り組んでいた。**
・**教師が促すことなく、場を存分に生かして**活動していた。
・幼児教育で**どのような学びを経験しているのかを把握することが必要**だと思う。
・**学校全体で「10 の姿」を共通認識**し、それを踏まえた学習活動を展開していくことが必要。

Ⅲ　研究のまとめ

・保育体験で実際に幼児と関わり、「10 の姿」を手掛かりに幼児の学びの姿を捉えたことで、**言葉や行動からその意味を推し量ろうとする**幼児理解を深めることができました。また、**幼児期に行われていた環境構成や教師の援助は、小学校生活科においても、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう姿につながる手立てとなることが分かりました。**
・保育体験はすべての教職員が経験できるものではありませんが、幼保小の接続を更に進めるにあたり、**小学校の教職員が幼児期の教育を理解することは重要です。**保育参観や幼児・児童の交流活動等で「10 の姿」を手掛かりとして幼児期の教育を理解し、**幼児期に育まれた資質・能力が小学校でどのように発揮されているかという視点で児童の学びの姿を見取ることが求められます。**

○本研究の報告書及び補助資料は、当センターの Web ページに掲載しております。
https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/211youji.html

Ⅱ　実践及び分析と考察（生活科）

手立て（２）幼児期の教育を生かした単元計画の構想と指導

保育体験による「10 の姿」に関わる資質・能力の理解を基に、実践する単元に関わる生活科の内容や児童の実態を踏まえて、「手立て（２）幼児期の教育を生かした単元計画の構想と指導」の内容を記載した**「保育体験から得られた気付きを生かした指導の手立て」**を指導案に位置付けました。

【幼児期の教育を踏まえた指導案（抜粋）】

4　保育体験から得られた気付きを生かした指導の手立て	
（１）本単元で生かしたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	
（２）保育体験から気付きを得た、指導に生かしたい場の設定（環境構成）	
（３）保育体験から気付きを得た、指導に生かしたい教師の関わり（教師の援助	
教師の援助	援助の内容・工夫

ア　「10 の姿」の理解を生かした単元計画の構想と指導

本時の目標や児童の実態を踏まえて、本単元に生かしたい「10 の姿」を記載しました。

イ　「環境を通して行う教育」を生かした指導（ア）場の設定（環境構成）・（イ）教師の援助

保育体験中に見られた環境構成及び教師の援助（補助資料参照）から、本単元に生かす「場の設定（環境構成）」「教師の関わり」を位置付けました。

（場の設定（環境構成）の例）
・活動に関連する教室掲示（工作・絵・絵本・写真等）を行う　など

（教師の関わりの例）
・尋ね返す、問いかける（思いや考えを引き出す）・共感する、共に喜ぶ　など

指導案は補助資料 pp. 2～15 に記載しています

◎保育体験を生かした指導上の留意点
◇評価　［　］評価の観点

・児童のこれまでの体験を基に、活動中の約束やねらいを確認する。
（健）（自）

○「保育体験から得られた気付きを生かした指導の手立て」で記述した内容を基に、指導上の留意点を記載しました。（括弧内は「10 の姿」）

授業実践（単元名　「なつが　やってきた」）

〈小単元１〉こうていで　なつを　さがそう

第１時
校庭で夏の自然や生き物などを見付ける。

第２時
見付けた物や気付いたことをカードにまとめ、発表する。

指導に生かした「10 の姿」
「自然との関わり・生命尊重」「健康な心と身体」

保育体験を生かした指導の手立て（教師の援助）
・児童が見付けた物について問いかける。
・気付きを受け止め、共感する。
・児童の気付きを共有する。

〈小単元２〉みずであそぼう

第３時
水遊びの経験を振り返り、身近な物を使ってどのような遊びができるか考える。

第４時・第５時
身近な物を使って、校庭で水遊びをする。

第６時
更に楽しく水遊びをする方法を考え、準備をする。

第７時・第８時
準備したことを生かして、再度水遊びをする。

〈小単元３〉なつのことを　つたえよう

第９時
友達や教師に紹介したい水遊びをカードに記述する。

第 10 時
カードに記述した内容を交流する。

指導に生かした「10 の姿」
「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」

保育体験を生かした指導の手立て（場の設定（環境構成））
・友達と一緒にカードを記述することができる場を設定する。
・遊びの写真をタブレット上で見ながら振り返りをすることができるようにする。

実践前は…
・遊びの体験を生かして学習活動を設定したいけれど、授業で行いたい活動を体験したことがない児童がいる時は、どうやって活動を進めるとよいだろう？

水遊びの導入の場面より
（「10 の姿」の理解、教師の援助）
研究担当者が**予想していた遊びが児童から出されない**

保育体験中に、幼児が遊びの中で**考えたり予想したりしていた学びの姿（「思考力の芽生え」）**を生かして、**「他の物で水鉄砲はできるかな」「他に水遊びに使えそうな物はないかな」**と問いかける。

【児童が経験を生かして考えることができるように問いかける】

幼児期の教育を生かすことで…
研究担当者が事前に構想していた**児童の体験を生かす問いかけだけではなく、幼児期に育まれた資質・能力も生かしながら、児童と一緒に遊び方を考えることができました。**また、研究担当者が遊びの内容や遊び方を示すのではなく、**児童自身がどのような遊びができるか考え、やってみたいという意欲をもつことにつながりました。**

実践前は…
・活動がうまく進んでいないＡさん。困っているからやり方を教えてあげよう。
・１人で活動できないＢさんには、「やってみて！」と声を掛けて自信をもつことができるようにしよう。

【一緒に活動しながら児童の様子を見取る】

シャボン玉遊びをしている児童との関わりから
（「10 の姿」の理解、教師の援助）

シャボン玉液作りに何度も挑戦している児童に…
・自分の力で行おうとする**「自立心」**や**「思考力の芽生え」**の姿を生かして、活動を見守る。

一人で遊ぶことに不安を感じている児童に…
・**「協同性」**を育んできた、他の児童や教師と関わる活動を取り入れる。

幼児期の教育を生かすことで…
保育体験を通して、幼児が多様な学びを経験していることを理解したことで、**生かしたい「10 の姿」を考えたり、発揮している幼児期の学びを見取ろうとしたりしながら**手立てを構想することができました。
また、教師主導ではなく、**児童の実態に合わせて手立てを考え、幼児期の学びを生活科の学習へつなぐ視点**をもつことにもつながりました。